

# 邪馬台国吉備説からみた初期大和政権

## 『物部氏と卑弥呼と皇室の鏡を巡る物語』

著者…若井正一（わかいまさかず）

出版社…一粒書房

出版年…2019年

価格…8800円＋税

邪馬台国は吉備であること、狗奴国の都が大和であることを長年説いてきました。本書は私説の集大成です。上巻・下巻・史料編あわせて1000頁です。

今日の主流は邪馬台国畿内説です。ところが、畿内説にとって有利な考古学上の材料はありません。一点を除けば。それは、「銅鏡百枚」の候補である画文帯神獸鏡や三角縁神獸鏡が畿内から多く出土していることです。本書は、画文帯神獸鏡と三角縁神獸鏡とは製作・流通を異にすること、「銅鏡百枚」の多くが後者であることを示します。三角縁神獸鏡には魏鏡説と国産鏡説とがあります。いずれにせよ、それを配布したのは大和政権であることを当然視します。これに対して本書は、三角縁神獸鏡の配布を始めたのは吉備の邪馬台国であり、270年頃にその製造と配布の主体が大和政権に移行したと説くものです。

